

マーケット概況（2021年7月）

7月の債券相場は、10年新発363回債が0.060%で取引を開始した後、1日の10年債入札を順調に通過し、2日発表の6月米国雇用統計で失業率が市場予想に反する悪化となり早期利上げ観測が後退したことから買いが優勢となった。その後も欧米経済指標が軒並み悪化したことやECBが2%の物価目標の上振れを容認する姿勢を明確化したことに加え、14～15日のパウエルFRB議長の議会証言で米国の金融緩和の長期化が意識されると債券相場は上げ幅を拡大した。さらに新型コロナウイルスのデルタ型変異株の世界的な感染拡大への懸念から19日の海外市場で大幅な株安債券高となったことを受け、20日に10年363回債の利回りは新発債として2020年12月23日以来となる0.005%まで低下し、同日夜間取引で債券先物9月限は一時中心限月として2020年5月上旬以来の高値となる152円62銭まで上昇した。27～28日の米国FOMC後の会見でパウエル議長がテーパリングに慎重な姿勢が示したことや、30日に緊急事態宣言の期間延長および対象地域拡大が決定したことから月末も債券相場は堅調に推移したが、米国で景気先行きへの楽観から主要株価指数が軒並み最高値を更新したことが上値を抑え、結局10年363回債の利回りは0.015%で今月の取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は、入札は-0.09%～-0.10%台で安定的に推移した。2日の3M1005回債入札は最高落札利回りが-0.0962%と横ばいであった。9日の3M1007回債入札より発行額が7,000億円減額となったことから、最高落札利回りは-0.10%台に低下した。15日の3M1008回債入札は投資家需要に支えられ、セカンダリー市場では一時-0.125%まで低下する場面もあったが、買いが一巡すると一服し、最終的には3M1012回債は-0.110%で月内の取引を終えた。6Mゾーンでは、償還日が年末越える6M1010回債は担保需要が強く、セカンダリー市場では一時-0.130%まで低下したが、国庫短期証券買入オペで買入対象外となり、月後半は動きが乏しい展開になった。1Yゾーンは、月末にかけて堅調な地合いとなり、1Y1009回債は-0.128%で月内の取引を終えた。

<一般債市場>

10年政保債の起債はなく、ベンチマークとなった10年地方債の起債スプレッドは国債カーブ+6.0bpと前月比同水準で決定した。クーポン水準は前月債対比で低下したが、0.10%台が維持され無難に消化された。5年地方債は6月25日に条件決定した5年東京都債（7月発行）を踏襲し、0.005%クーポンと前月債対比で低下した。国債金利が低下基調の中、スプレッドと利回り水準がともに意識されたが既発債への需要も底堅い状況だった。社債の発行額は1兆1,634億円と、高速道路各社や三菱UFJフィナンシャルグループの個人向け劣後コーラブル債などが押し上げた一方でその他の事業債は起債が落ち着き、前年同月比1兆3,000億円弱減少した。

◎ 主要債券月間四本値 ◎

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#363	0.060(1日)	0.005(20日)	0.060(1日)	0.015(30日)
#362	0.045(1日)	-0.005(15日)	0.045(1日)	0.005(30日)
#352	-0.085(2日)	-0.135(21日)	-0.085(2日)	-0.120(30日)
#147-#148(5Y)	-0.110(1日)	-0.130(15日)	-0.110(1日)	-0.125(30日)
#176-#177(20Y)	0.435(1日)	0.375(15日)	0.435(1日)	0.390(30日)
#1001-#1010TDB(6M)	-0.101(2日)	-0.130(21日)	-0.101(2日)	-0.130(21日)
#1004-#1012TDB(3M)	-0.100(2日)	-0.125(15日)	-0.098(9日)	-0.110(30日)